

4年 国語科研究授業のまとめ（12月15日）

1 単元名及び単元の目標

「『ゆめのロボット』を作る」（5/11本時）

◎二つの文章を中心となる語や文を捉えながら関係付けて読み，考えたことを友達と伝え合い，自分の考えを深め広げることができる。

2 本研究授業の提案について

本時では，インタビュー記事と説明文を関連付けて読み，筆者の願いを捉えさせることができるようにするために，以下の二つについて提案を行った。



【資料1 付箋を用いた話し合い】

（1）インタビュー記事と説明文とを関連させながら読み取りを行うことができるようにするために，上下にインタビュー記事と説明文を示すワークシートを活用した。また，ワークシートを拡大したものを掲示し，学習の振り返りや気づきを共有できるようにした。上下に本文を示したことで，インタビュー記事から読み取った筆者の願いを踏まえ，説明文から読み取れる筆者の願いについて考えることができたと思う。説明している内容は異なっているけれども，ロボットに対する筆者の考えは共通しており，異なる点を見つける際にも，共通点を見つける際にも一目で本文を比較できるように並べて示すことが有効であることが分かった。

（2）グループでの話し合い活動を取り入れ，「着るロボット」の使用例からできるようになることを考えさせることで，より具体的に筆者の考える「ゆめのロボット」とは何かについて迫れるようにした。話し合い活動において付箋を活用し，考えを書き込みながら話合ったことで，自分の考えや友達の考えが見え，そこから話し合いが広がっていった。（資料1参照）誰がどの意見を出しているか，どんな話し合いが行われているか教師が把握する上でも話し合いを「見える化」する必要があると考えた。また，「どんな人が『着るロボット』を使用しているか」という本文の読み取りから，「ロボットを使用することでその人たちがどんなことができるようになるか」という想像へと話し合いを展開させていった。できるようになることを想像させることは，本文から離れた読み取りになってしまうのではないかと懸念していたが，本文を基に具体的にロボットを活用するイメージが広がり，それが筆者の願いを読み取ることへとつながっていた。

3 本研究授業の授業技術課題について

1時間の流れが明確になるように，板書の構成を工夫することを課題とした。できるようになったことを挙げさせた時点で，児童からは使用者の気持ちについても挙げられていたのだが，そこでは取り上げず改めて気持ちについて考えさせたことで思考が止まってしまった。板書ではできるようになったことの記述の中に，使用者の気持ちについても書かれていたので，そこを生かして考えさせれば，児童の思考も途切れず，板書も構造化されたのではないかと考える。

4 今年度の研究授業を振り返って

今年度は国語科の「読むこと」を中心に，目的に応じて文章を分析的に読むこと，内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えながら構成を把握したりしながら読むことをねらって授業を構成した。読ませる文章のねらいによって文章の提示の仕方，発問，板書など，様々な手だてが必要であることが分かった。読むことで何を学ばせるかを意識しながら今後も研修を深めていきたい。